

記者発表資料

平成29年(2017年)2月3日

所属・課名	所属長名	部長・課長名	担当者職・氏名	連絡先
全農 山口県本部	本部長 堀 寛	営農推進部・部長 廻本 学	営農推進部・次長 山本 雅行	083-988-0621
(公財)山口県 学校給食会	理事長 松永 卓	常務理事 土井 達夫	総務課・課長 岩谷 敏文	083-922-0714
山口県 農林水産部	農林水産部長 河村 邦彦	農業振興課長 田村 尚志	農業技術班 福谷・原	083-933-3366 (内線 3366)
発表内容の 関係地域	全農、岩国、柳井、周南、山口、防府、宇部、山陽小野田、下関、長門、萩、首都圏			

カドミウム基準値超過玄米の検出及び回収について

学校給食用米を含め県産米については、各農協による簡易抽出検査を実施し、市場に流通しているが、学校給食会においては年1度各地域の米を自主的に検査しており、昨年12月23日に抜き取った岩国ヒノヒカリの「玄米」の検査において、食品衛生法に基づく基準値を超えるカドミウムが検出されたことが、本年1月13日に判明しました。

この「玄米」は、全農山口県本部から卸売業者に販売後、昨年12月26日に「精米」されて、昨年12月28日から本年1月13日にかけて、岩国市・和木町内の小中学校30校及びJA南さうに「玄米」ではなくすべて「精米」で納入されています。

検査結果判明後、各学校等に納入された「精米」3,320kgの使用をただちに中止し、全農山口県本部では、既に消費された1,328kgを除く1,992kgを回収しました。

その後、回収した「精米」を検査したところ、すべて基準値以下となっており、今回流通した米は、「玄米」ではなく「精米」であることから、全く健康への悪影響はありません。

また、1月31日より学校関係者への説明も開始しております。

なお、詳細は下記のとおりです。

記

1 販売者

全農山口県本部（卸売業者を通じて学校給食用等に納入）

2 検査の状況

(1) 山口米の出荷前自主検査

各農協は、出荷前に全量を対象に抽出簡易検査を実施し、基準値に近い米についてはさらに詳細検査を実施し、基準値超過がないことを確認して流通させている。

これまでの玄米を含め基準値を超過したことはない。

(2) 山口県学校給食会自主検査

学校給食会は、年に一度、使用する各地域の米を順番に検査しており、1月は岩国地域の検査を実施。

検査結果判明：平成29年1月13日（金）

検査実施機関	検査品	検出物	検出濃度	基準値
(一財)日本穀物検定協会（東京都）	玄米	カドミウム	0.48mg/kg	0.4mg/kg

3 健康への影響

- (1) 納入は全て精米であり、回収した精米を納入先別に再検査（詳細は別紙）したところ、全て基準値以下であり、健康への悪影響はない。

検査結果判明：平成 29 年 1 月 17 日（火）～20 日（金）

検査実施機関	検査品	検出物	検出濃度	基準値
（一社）食の安心・安全研究センター	精米	カドミウム	0.06～0.1mg/kg	0.4mg/kg

検査結果判明：平成 29 年 1 月 20 日（金）～23 日（月）

検査実施機関	検査品	検出物	検出濃度	基準値
関サタケ穀物分析センター	精米	カドミウム	0.05～0.07mg/kg	0.4mg/kg

- (2) 当該生産農家の玄米を再検査した結果、ND（検出限界以下）～0.09mg/kg であり、全て基準値以下であった。（1 月 19 日検査結果判明）

〈参考〉

仮に玄米のまま食べたとしても、検出濃度から、健康への悪影響はない。（「耐容週間摂取量（TWI）」を超えない）

※「耐容週間摂取量（TWI）」（内閣府食品安全委員会）とは、人がある物質を生産にわたって食べ続けても、健康被害が生じないと考えられる 1 週間当たりの摂取量で、本件では、最も体重の軽い小学 1 年生（平均体重 20.9kg）が 1 回 70g を週 3 日（今回の最多米飯給食実績）食べても健康への悪影響はない。

4 流通及び回収状況

出荷農協	山口東農業協同組合（岩国市多田 97 番地 2）
生産者	岩国市（旧岩国市内）の 28 農家
品種	ヒノヒカリ
納入日	平成 28 年 12 月 28 日～平成 29 年 1 月 13 日
納入先	岩国市及び和木町内の小・中学校、給食センター、委託炊飯業者等（関係校 30 等；詳細は別紙）
納入量	3,320 kg（10 kg 入 332 袋）
回収状況	1,992 kg（消費された 1,328 kg 以外は全て回収済み）

※検査結果判明後、直ちに販売者により学校給食会を通じ、納入先に使用中止を連絡。

5 考えられる要因

本県では、より安全な米を提供するため、県域で湛水管理によるカドミウム吸収抑制対策の実施を指導しているが、生産者の一部で湛水管理が不十分であったことが考えられる。また、各農協が出荷前の自主検査を実施しているが、全量検査は難しく、抽出検査であることも一因として考えられる。

6 今後の対応

(1) 生産段階の対策

- ・ 水稻のカドミウム吸収抑制対策（出穂期の湛水管理等）の徹底

(2) 流通段階の対策

- ・ J A の検査点数の増加による出荷前自主検査体制の充実強化

7 問い合わせ先

○山口米の販売に関する事

全農山口県本部営農推進部営農販売企画課 廻本、山本

TEL 083-988-0621

○学校給食米の納入に関する事

(公財) 学校給食会 土井、岩谷

TEL 083-922-0714

○水稻の生産技術に関する事

山口県農林水産部農業振興課農業技術班 福谷、原

TEL 083-933-3366